

【共同獣医学課程のカリキュラム・ポリシーの具体】

共同獣医学課程では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

1年次では、一般教養として、様々な講義に積極的に参加して教養を身につけます。また、「農畜産演習」や獣医学導入教育としての「基礎学術ゼミナール」および「帯広基礎獣医学演習」を履修します。

2年次以降では、獣医学に関する専門性を深めるため、専門科目を開講します。専門科目では、獣医学の基礎・病態・応用及び臨床にわたる高度の知識と技術を教授することを目的として、4つの獣医学専門科目群（基礎獣医学科目、病態獣医学科目、応用獣医学科目、臨床獣医学科目）と獣医学関連科目群（獣医学導入科目、獣医師導入科目、畜産関連科目）から成る教育課程を編成します。なお一部の獣医学導入科目については、1年次より開講します。

2年次では、動物体内の仕組み、反応や病気の基礎を学ぶため、解剖学、生理学、生化学、薬理学、免疫学、放射線生物学、微生物学、実験動物学などの講義や実習を履修します。アニマルウェルフェアに配慮した高い動物生命倫理観を培うため、獣医倫理・動物福祉を学びます。また、草地飼料学、基礎動物栄養学、短期現地実習といった周辺領域も学びます。さらに、国際的視点を養うため、国際獣医師人材養成プログラムを2～5年次に展開し、英語でのコミュニケーション能力を高めます。

3年次では、微生物学、感染症学、原虫病学、寄生虫・寄生虫病学、魚病学、病理学、野生動物学などの講義や実習を通して、動物の病気の原因となる因子やその解析手法の基礎について学びます。さらに、食品衛生学、動物衛生学、公衆衛生学・毒性学などの環境科学の講義を通して、多様な獣医学の社会的使命を理解します。また、内科学、臨床診断学といった臨床獣医学に関する講義、ならびに臨床の基本技能を身につけるためのプレクリニカル実習が開講されます。

4年次では、環境毒性学・環境衛生学、獣疫学、人獣共通感染症学といった応用獣医学とともに、外科学、繁殖学、臨床腫瘍学などの臨床獣医学ならびにプレクリニカル実習が開講されます。さらに獣医師導入教育として、獣医コミュニケーション演習、獣医法規などが加わります。また、国際的活動の基礎となる獣医学専門セミナー（英語演習）を受講し、後期には研究室に仮配属（課題研究）します。4年次の年度末に全国共通の獣医学共用試験を受験します。

5年次および6年次では、附属動物病院などにおける診療に立ち会い、獣医療の実際を体験する参加型臨床実習を実施します。また、いずれかの研究室に所属し、卒業後の職域や興味をひく研究分野を考慮し、アドバンスト演習を受講します。さらには、課題研究の合間に大学院博士課程の入試対策や就職活動など、将来の獣医師および獣医学研究者としての責任を身につけていきます。獣医師国家試験が例年2月中旬に実施され、

3月中旬に合格発表があります。